



ネ

ットから遮断されてみると、すわ、おおごと、とあわててしまったが、代替の方法もないではなく、どうにか日々が過ぎていつている。ただ、その代替というのには制限があつて、不用意に使うと困ったことになるらしい。今のところ、らしいと、極めてあいまいにしか理解できていない。「〇ギガまで」と念を押すように説明されたが、そんな数字で何ができて何ができないかわかるはずがなく、ちんぷんかんぷんだ。とりあえず、動画を見るとたくさん容量を使うらしいから気をつけろというのはわかった。こんなことになる前から、動画なんぞたいて見えていないから、それだけだったら痛くも痒くもない。それでも分からぬというは不安なもので、音楽配信にも、NHKプラスにも手を出さず、音楽はラジオを聞き、テレビはまったく見ないという生活になった。しばらくは、それをとて不便なことと感じていたが、一週間もそうしていると慣れてきた。不便というのは単なる思い込みで、新聞を読んでラジオを聞いていたらテレビやネット記事なんぞなくて平気だということがよくわかった。もう少しでネットなんぞなくてもとうそぶけそうなのだが、どうにもならないのがメールやSNSの類いだ。

木幡さんも書いていたが、この通信を始めた三十年

老い老いに

木幡智恵美

32

六

年目の一九九八年度に夕焼け通信に載せられた講演(講演録として連載されたものを除く)やお知らせをあげてみる。講演会の案内は次の通り。

・長谷川集平講演会『ぼくが絵本をかきながら考えてきたこと』石炭文化ホール・アムステルダム・中四国交流会公開講演会『緊迫した人権状況を考えるー世界人権宣言五十周年記念人権問題講演会』講師 山下明子氏 島根県民会館・世界人権宣言五十周年記念人権問題講演会『人生に絶望はないーハンセン病一〇〇年のたかい』講師 平沢保治氏 広瀬・松江・隠岐・横田・松江東校

講演会以外でのお知らせは次のようなもの。

・道尋窯みぢかな陶展 ラピタ本店 ギャラリーアスバツハ・第八回アジア・太平洋地域の戦争犠牲者に思いを馳せ、心に刻む大田集会 大田市民センター・ドイツ・ウルム室内合奏団チャリティコンサート 広瀬町立中央公民館・韓国済州島4・3事件ドキュメンタリービデオ上映会 松江市総合福祉センター・『ハンセン病を正しく理解するための集会』『白活映画『愛する』を観てー出雲伝道所・アニメ『対馬丸』ビデオ上映会 生協しまね雲南支所・対馬丸と沖縄戦の体験をきく会 お話 平良啓子氏 大東町民体育館・『沖縄戦 未来への証言』ビデオ上映会 生協しまね雲南支所・『ゆめ・風展』やまびこの会 ゆめ・風ネットしまね 大田市立図書館・演劇公演『黒い雨』広瀬町中央公民館・死刑廃止を考える学習会 くにびきメッセ・映画上映会『ナージャの村』(チェルノブイリ原発事故に関わるもの) 隠岐島文化会館・新市福祉会館公開講座『朝鮮半島と日米安保新ガイドライン』朴泰永氏『日朝交流一五年の歩みから』福原孝浩氏 新市中央集会所

ほかに、出版案内もいくつか載せられた。以前講演いただいた方の近著、夕焼け通信投稿者の出版物などだ。それぞれの案内を見ると、編集長やY氏が新天地に赴いてから新たな出会いがあり、活動の範囲が広がっていることがよく分かる。そして、取り上げている内容のほとんどが人権にかかわるものだ。

あまり前、原稿のやりとりは郵送か直接だった。その手書きやワープロ原稿をまた一字一字タイプして入力したのだった。だからタイプミスの誤植が気をつけていてもなくならず、締め切りに追われてあわてて発行したときなど、目を覆いたくなる惨状だった。しかし、当時はまだ公文書にも手書きが混じるような時代だったので、誤字脱字にもわりとみんな寛容で、頭の中で校正して文意を察していたし、そうしてもらっていた。だから岩波文庫のようにいくら読んでも誤植の見つからないような書籍は、それだけでとてつもなく尊く思えたのだった。

ちょうど通信を始めるのと同時期にパソコン通信が一般にも広がりはじめて、あれよあれよという間にメールが通信手段の主流となった。コピペという言葉が出てきたかと思ったら、最初に帯びていた批判的な含みなんぞ瞬く間に消えていった。

気がつけば、メールさえ旧式に属すようで、塾の保護者たちとの連絡はもっぱらLINEだ。聞けば、学校への欠席連絡も電話ではなくアプリでひよいと送るのが主流なんだとか。

二月もすればネット開設工事がある。つながらなかった間、何を考えたかきつとすぐに忘れる。さして不便じゃなかったことを記憶しておきたいのだが。

30代フリーター 朝日新聞の世論調査（4月19、20日実施）では、消費税率を「一時的にでも引き下げるほうがよい」が59%で、「いまのまま維持するほうがよい」の36%を上回っている。他方で、引き下げることで社会保障に悪い影響が出る不安を「感じる」は「大いに」と「ある程度」を合わせて60%で、引き下げ賛成と同じくらいある。年金生活者 自らの望む政策が将来への不安を生むという矛盾が、今の社会に希望を見いだせない要因のひとつとなっている。

先日の朝日新聞は「『減税』一色雪崩打つ各党」の見出しで、与党の公明党と各野党が夏の参院選に向けて消費減税を公約化していることを報じていた（4月26日朝刊）。自民党内からも減税を求める声が出ているとも。

だが、消費税の引き下げは世論調査結果にもあらわれているように社会保障の水準低下を招く恐れがある。それだけではない。財源の裏付けがないまま大型減税政策を打ち出し、金利の急

騰と通貨の急落を招いた2022年の英国のような例もある。

経済政策がこうしたジレンマに陥るのは、高度経済成長が遠い過去のものとなり、分け合うパイの大幅な拡大が見込めなくなった先進国に共通の現象だ。それが人びとの将来への希望を奪っている。

30代 希望の度合いは国によって違う。日本財団が去年2月、日本・アメリカ・イギリス・中国・韓国・インドの17〜19歳の若者（各1000人）を対象に実施した意識調査によると、自国の将来が「良くなる」と答えた割合は、中国85・0%、インド78・3%、韓国41・4%、アメリカ26・3%、イギリス24・6%、日本15・3%だった。年金 行き着くところまで行き着いて目標を見いだせなくなった先進国の若者に比べると、先進国に迫りつき追いつくことを目標としている新興国の中国やインドの若者ははるかに希望を持ちやすい環境にすることがわかる。それだけでなく、中国とインドはアメリカ

に代わる次の覇権国家を狙えるポジションにあり、それが、若者たちの希望を増幅していると考えることができる。30代 中国が覇権国家になる可能性はどの程度あるんだ。

年金 トランプ関税が自由貿易を脅かしているさなかにワシントンで開かれたG20財務相・中央銀行総裁会議で、中国人民銀行の総裁は、自由貿易ルールと多国間貿易体制を断固として支持すると表明した、と報じられている（4月24日ロイター）。これまでも中国は繰り返し自由貿易体制の堅持を強調し、その守り手を自任してきた。アメリカに代わる次の覇権国家は中国だというメッセージと受け取る国々は多いだろう。

自由貿易体制は、抜きん出た経済力と軍事力を持つ覇権国家が存在して成り立つ。今その座からずり落ちつつあるアメリカは、自由貿易体制を守り続ける力を失い、逆にこの体制を重荷に感じるようになった。それがトランプを高関税による保護貿易主義に走らせ

る要因のひとつとなっている。

覇権国家は古代以来の「世界帝国」の現代版だ。その不在は次の「世界帝国」の座を狙う大国と前の「世界帝国」とのせめぎ合いを引き起こす。それが「帝国主義」であり、米中の対立は無血の「帝国主義戦争」にほかならない。

すでに「地域帝国」のし上がった中国がこの戦争に勝ち抜いて、「世界帝国」になるかどうかは見通すことができない。だが、習近平がそれを狙って長期戦を覚悟していることは間違いないだろう。そしてその成否を分ける決定的なステップとして台湾統一を考えているはずだ。「帝国」には服属国の存在が必須であり、台湾をそれに組み入れることができなければ、他の服属国や服属国候補の国に示しがつかない、と習は考えていると推察される。

30代 トランプの「革命」にしろ、兵庫県知事の斎藤元彦の「改革」にしろ、「破壊」のあとの「創造」のビジョンが見えてこないのに、多くの有権者

ニュース日記 966
中村 礼治

希望のない国

が彼らを支持するのは、それほど未来への希望を失い、とりあえずこの現状を壊してほしいという切迫した願望があるからだ。ポスト産業資本主義の限界があらわになっているのに、それに

代わる資本主義の次の段階が見えてこないことが世界的な背景としてある。先週、ジイさんそう言っていた。年金 資本主義の次の段階は目には見えてこないが、想像することはできる。たとえば可能性のひとつとして次のような想定が成り立つ。

AIを基盤とした技術が将来、飛躍的に進歩すると、ほとんどのモノやサービスは自動生産されるようになり、人間は働く必要がなくなる。その結果、収入の道は断たれるが、自動生産されるモノやサービスは限界費用がゼロになるので、無料で手に行うことができる。貨幣は消滅し、資本主義は終焉を迎えるだろう。

しかし、こんな未来像をいくら描いてみても、今の現実とかけ離れ過ぎていて、人びとが将来に希望を持つことはないだろう。それどころか、仕事がなくなり、生きがいを失い、退屈にさいなまれるデイストピアを思い浮かべるかもしれない。現在は深い谷間のような過渡期にあるというほかない。